

## はじめに

本書は、ECERS-3の邦訳『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を用い、保育者に対してコーチングを行う際の手引書です。ECERSとは、アメリカで開発された、保育の総合的な質の測定尺度です（読み：エカーズ = *Early Childhood Environment Rating Scale*）。ECERSの初版は1980年に発行され、以後、アメリカの国内にとどまらずヨーロッパ、アジア、南米へと使用が広がり、多くの調査研究や保育の質の向上に用いられています。改訂を重ね、現在の第3版ECERS-3に至りました。

保育の質の定義は困難であり、質とは、大きくは国や地域などその所属する文化、小さくは個人の感覚や価値観に依存するものです。しかしこのような定義の困難さがあるとしても、ECERSというアメリカの保育環境の質の測定尺度は、国境を越えて多くの人々に使用されるようになりました。ECERSの原著者らは、保育の質について次のような3つの基本的な要素を強調しています。

- 子どもの健康と安全の担保
- 子どもの社会情動的発達と周囲の大人や子どもとの肯定的な関係の構築
- 子どもの実体験を通しての学びを育み、好奇心を刺激する環境

これら3つの要素の重要性は、国や文化の違いを超えて多くの人に共有されるものではないでしょうか。

私は2004年以来、新・旧、3歳以上・3歳未満児の集団保育を対象とする『保育環境評価スケール』（ECERS, ITERS = *Infant Toddler Environment Rating Scale*）によるコンサルティングを行ってきました。数名の人と午前中に約3時間クラスに入り、評価スケールに沿って観察を行い、午後数時間かけて結果の検討を行うという形をとります。評価スケールを手に保育をじっくりと観察し、共通の枠組みをもとに話し合うというスタイルです。

昨今は幼児教育アドバイザーなどの需要が生じてきています。コーチングに

対する需要，キャリアパスの具体的な根拠などが求められています。『保育環境評価スケール』は，経験と勘を具体的な保育実践の枠組みに落とし込んでいけるツールとも言えましょう。そして，このツールを使いこなせるための導き手，すなわちコーチの育成が，評価スケールが活用されるために求められます。

「子どものために最善の実践を行う」これが本書のコンセプトです。この基本理念のもとに，アメリカという国の，日本とは少し違う文化の香りも楽しんでいただければと思います。

保育をよくしていくことは保育者，園長，コーチの共同作業です。本書が三者のよりよいチームワークの一助となることを期待しています。

2019年12月

埋 橋 玲 子